

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月14日
【四半期会計期間】	第36期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日）
【会社名】	メディキット株式会社
【英訳名】	MEDIKIT CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 栗田 宣文
【本店の所在の場所】	東京都文京区湯島一丁目13番2号
【電話番号】	(03)3839-8870
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部門担当兼経理部長 石田 健
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区湯島一丁目13番2号
【電話番号】	(03)3839-8870
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部門担当兼経理部長 石田 健
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第3四半期 連結累計期間	第36期 第3四半期 連結累計期間	第35期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成30年4月1日 至平成30年12月31日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (千円)	13,488,941	14,238,106	17,445,214
経常利益 (千円)	3,222,067	3,195,708	3,695,740
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,858,412	1,813,070	2,465,174
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,896,153	1,805,351	2,427,103
純資産 (千円)	37,617,227	39,317,350	38,148,177
総資産 (千円)	43,440,248	45,519,115	44,280,474
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	219.21	213.86	290.78
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	86.6	86.4	86.2

回次	第35期 第3四半期 連結会計期間	第36期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日	自平成30年10月1日 至平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	86.01	90.28

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

#### （1）財政状態及び経営成績の状況

##### 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比（以下前期末比という）1,238,641千円増（2.8%増）の45,519,115千円となりました。

流動資産は同755,321千円増（2.3%増）の33,658,847千円、固定資産は同483,319千円増（4.2%増）の11,860,268千円となりました。

流動資産増加の主な要因は、受取手形及び売掛金が789,669千円増加したこと等によるものです。

固定資産のうち有形固定資産は、同701,540千円増（8.0%増）の9,490,615千円となりました。

無形固定資産は、同61,834千円減（9.9%減）の564,418千円となりました。

投資その他の資産は、同156,386千円減（8.0%減）の1,805,235千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前期末比69,467千円増（1.1%増）の6,201,765千円となりました。

流動負債は同127,287千円増（3.4%増）の3,922,504千円、固定負債は同57,820千円減（2.5%減）の2,279,261千円となりました。

流動負債増加の主な要因は、支払手形及び買掛金が190,515千円増加したこと等によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前期末比1,169,173千円増（3.1%増）の39,317,350千円となりました。

この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と配当金の支払いにより、差引き利益剰余金が1,177,240千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は86.4%となりました。

##### 経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、不安定な国際情勢が懸念され依然として先行き不透明な状況が続いているものの、引き続き堅調な企業収益や雇用情勢により、緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループの属する医療関連業界におきましては、少子高齢化社会の到来により厳しさが増す中、増加し続ける医療費を背景に、国が推し進める医療・介護の将来像の実現に向けて医療制度改革が進められております。昨年には診療報酬改定が行われ、医療を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあると言え、関連各企業におきましては、強く効率化の推進が必要とされる状況にあります。

このような中で当社グループは、品質の高い製品を医療現場に提供し、進歩する医療に対処するための安全性を備えた新商品を提供できるよう、努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高14,238,106千円（前年同四半期比5.6%増）、営業利益3,104,953千円（同2.1%減）、経常利益3,195,708千円（同0.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,813,070千円（同2.4%減）となりました。

当社グループの商品区分である品目別の売上高は以下のとおりであります。

人工透析類におきましては、5,164,351千円（前年同四半期比4.8%増）となりました。静脈留置針類におきましては、4,019,817千円（同4.5%増）となりました。アンギオ類におきましては、5,034,705千円（同7.4%増）となりました。

なお、当社グループは、医療機器の製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

( 2 ) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 4 ) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、175,712千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,760,000
計	33,760,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,440,000	9,440,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(注)
計	9,440,000	9,440,000	-	-

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日	-	9,440,000	-	1,241,250	-	8,378,585

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 962,300		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,477,000	84,770	同上
単元未満株式	普通株式 700		
発行済株式総数	9,440,000		
総株主の議決権		84,770	

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
メディキット株式会社	東京都文京区湯島一丁目13番2号	962,300	-	962,300	10.19
計	-	962,300	-	962,300	10.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもってEY新日本有限責任監査法人となりました。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	24,222,892	24,363,687
受取手形及び売掛金	4,291,592	5,081,262
金銭の信託	1,500,000	1,500,000
商品及び製品	870,062	829,421
仕掛品	1,290,830	1,200,365
原材料及び貯蔵品	553,816	613,444
その他	174,761	71,174
貸倒引当金	430	509
流動資産合計	32,903,526	33,658,847
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	2,589,542	2,512,822
機械装置及び運搬具(純額)	1,757,459	2,482,843
工具、器具及び備品(純額)	1,462,500	1,463,517
土地	2,502,116	2,501,982
建設仮勘定	477,454	529,449
有形固定資産合計	8,789,074	9,490,615
無形固定資産	626,252	564,418
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	829,748	775,961
保険積立金	69,825	69,826
繰延税金資産	924,051	817,667
その他	138,745	142,529
貸倒引当金	750	750
投資その他の資産合計	1,961,622	1,805,235
固定資産合計	11,376,948	11,860,268
資産合計	44,280,474	45,519,115

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,110,006	2,300,521
未払法人税等	540,809	537,959
賞与引当金	376,485	194,541
その他	767,915	889,481
流動負債合計	3,795,216	3,922,504
固定負債		
退職給付に係る負債	249,566	252,288
資産除去債務	23,062	23,062
その他	2,064,452	2,003,910
固定負債合計	2,337,081	2,279,261
負債合計	6,132,297	6,201,765
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,241,250	1,241,250
資本剰余金	10,378,585	10,378,585
利益剰余金	29,135,892	30,313,133
自己株式	2,742,957	2,743,305
株主資本合計	38,012,770	39,189,662
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	168,236	123,908
繰延ヘッジ損益	47,945	-
退職給付に係る調整累計額	15,115	3,778
その他の包括利益累計額合計	135,406	127,687
純資産合計	38,148,177	39,317,350
負債純資産合計	44,280,474	45,519,115

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	13,488,941	14,238,106
売上原価	7,711,752	8,230,669
売上総利益	5,777,189	6,007,437
販売費及び一般管理費	2,606,606	2,902,483
営業利益	3,170,582	3,104,953
営業外収益		
受取利息	3,221	3,269
受取配当金	15,295	16,301
受取地代家賃	26,208	27,427
投資事業組合運用益	16,550	-
為替差益	-	32,141
その他	42,726	44,977
営業外収益合計	104,002	124,118
営業外費用		
支払利息	5,179	5,240
投資事業組合運用損	-	1,590
為替差損	25,419	-
減価償却費	1,520	11,193
売電費用	12,559	11,391
その他	7,837	3,947
営業外費用合計	52,517	33,363
経常利益	3,222,067	3,195,708
特別利益		
関係会社株式売却益	70,913	-
特別利益合計	70,913	-
特別損失		
固定資産除却損	14,462	9,656
減損損失	775	134
特別損失合計	15,238	9,790
税金等調整前四半期純利益	3,277,742	3,185,917
法人税、住民税及び事業税	1,270,656	1,260,439
法人税等調整額	148,673	112,407
法人税等合計	1,419,329	1,372,847
四半期純利益	1,858,412	1,813,070
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,858,412	1,813,070

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,858,412	1,813,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45,737	44,327
繰延ヘッジ損益	-	47,945
退職給付に係る調整額	7,996	11,336
その他の包括利益合計	37,741	7,718
四半期包括利益	1,896,153	1,805,351
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,896,153	1,805,351
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	202,803千円	210,350千円
支払手形	517,981	478,286

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)の償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
減価償却費	737,479千円	833,725千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	635,829	75	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	635,829	75	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)

当社グループは、医療機器の製造・販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益	219円21銭	213円86銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,858,412	1,813,070
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,858,412	1,813,070
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,477	8,477

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月13日

メディキット株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 秀 敬 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 井 清 二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているメディキット株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

**四半期連結財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**監査人の結論**

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、メディキット株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。